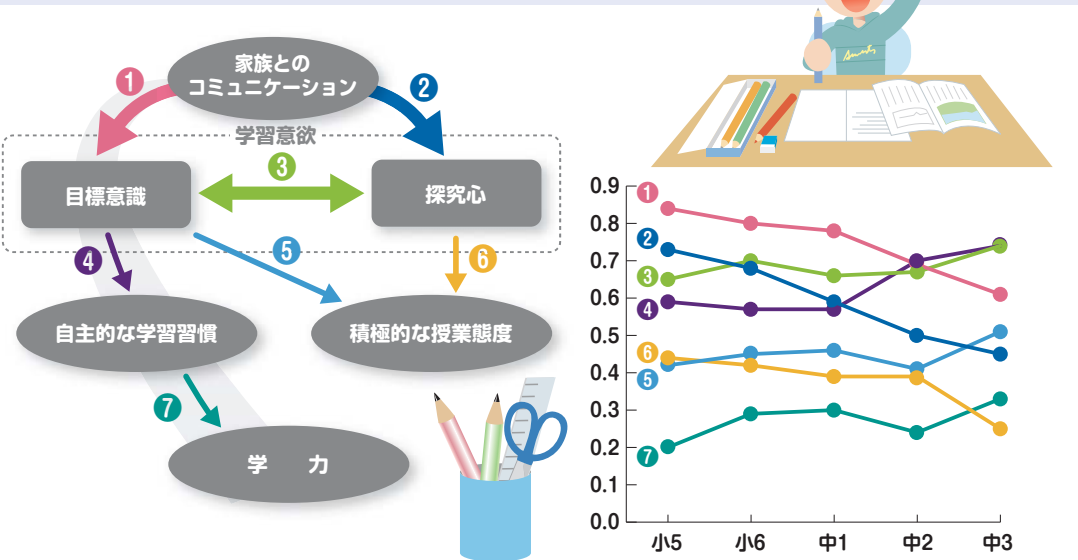


成長するにつれて、学習意欲のあり方は変わっていく

図のような関係性は、子どもが成長するにつれて大きく変化していくことも明らかとなりました。



右上のグラフは、成長するにつれて子どもの学習意欲を取り巻く要因の影響力がどのように変化していくかを表したものです(グラフの色および丸数字は左上の図と対応)。縦軸の値はパス係数で、値は0から1の間をとります。0の場合は影響力は皆無で、値が1に近づくほど強い影響力を及ぼしていることを示しています。

「家族とのコミュニケーション」から「目標意識」への影響力(①)および「探究心」への影響力(②)は、高い状態を維持しながらも成長するにつれて次第に減少していきます。その一方で「目標意識」から「自主的な学習習慣」への影響力(④)は、中学1年生以降、劇的に増加していく傾向がありました。この結果は、この時期が子どもにとって「勉強」の意味が大きく変化する時期であり、将来の目標達成を見据えた進路選択の“手段”としての意味合いが相対的に増してくることを表すものです。

また、学力の向上に大きな影響力を及ぼしているものは「積極的な授業態度」よりも「自主的な学習習慣」でした(⑦)。そしてこの影響力は成長するにつれて次第に増加していきます。強い探究心が「積極的な授業態度」を促す一方で(⑥)、学力の定着には授業時間外での自主的な学習習慣が功を奏することがデータから裏付けられたと言えるでしょう。

子どもたちの心に旺盛な探究心が芽吹くように、将来の目標をもたせるように、毎日のコミュニケーションを心がけることが大切であることを、今回の調査結果は強く指し示しています。

発行元：学習意欲の科学的に関するプロジェクト

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 川島 隆太 (東北大学加齢医学研究所教授) | 筒井 健一郎 (東北大学生命科学研究科准教授) |
| 杉浦 元亮 (東北大学加齢医学研究所准教授) | 荒木 剛 (東北大学加齢医学研究所助教) |
| 庄子 修 (仙台市立富沢中学校長) | 堀越 清治 (仙台市立荒町小学校長) |
| 堀田 剛司 (仙台市教育委員会学校教育部長) | 熊谷 祐彦 (仙台市教育委員会学校教育部参事) |
| 藤森 幸 (仙台市教育委員会学びの連携推進室長) | 阿部 英伸 (仙台市教育委員会教育センター所長) |

事務局

- 今野 孝一 (仙台市教育委員会学びの連携推進室主幹)
 本郷 栄治 (仙台市教育委員会学びの連携推進室主任指導主事)
 新妻 英敏 (仙台市教育委員会学びの連携推進室指導主事)



豊かなコミュニケーションと将来への目標意識が確かな学力を生み出す!

— 仙台市標準学力検査, 仙台市生活・学習状況調査における小5～中3の詳細な分析結果から —

学習意欲のバランス

- 小学校では、「知りたい気持ち」と「わくわく感」を大切に
- 中学校では、将来の目標と毎日の学習をつなぐ指導を

家庭での語り

- 家庭での語りを通じて、将来の夢の具体化を
- 子どもの“一生懸命な気持ち”を支える環境づくりを

健康的な生活習慣

- バランスのとれた食事を、なるべく家族みんなで
- 適切な睡眠時間が、確かな学力の礎に

生活・学習状況調査の目的

- ① 児童生徒の学習状況や生活習慣等について、全市的な規模で客観的な分析・把握を行う。
- ② 各学校が、自校の成果と課題を分析・把握し、指導の工夫・改善を図る。
- ③ 調査結果を、個に応じたきめ細かな指導の充実に生かす。

調査内容 (質問紙調査)

- 学校生活 ● 授業 ● 学習意欲 ● 家庭生活 ● 自由時間 ● 家庭学習
- 社会・地域との関わり ● 道徳心・挑戦・夢 ● 自分づくり

参加状況等

- ① 実施校数 全市立小学校125校 全市立中学校63校 中等教育学校1校
- ② 実施日 平成24年4月23日(月)～27日(金)
- ③ 有効回答数

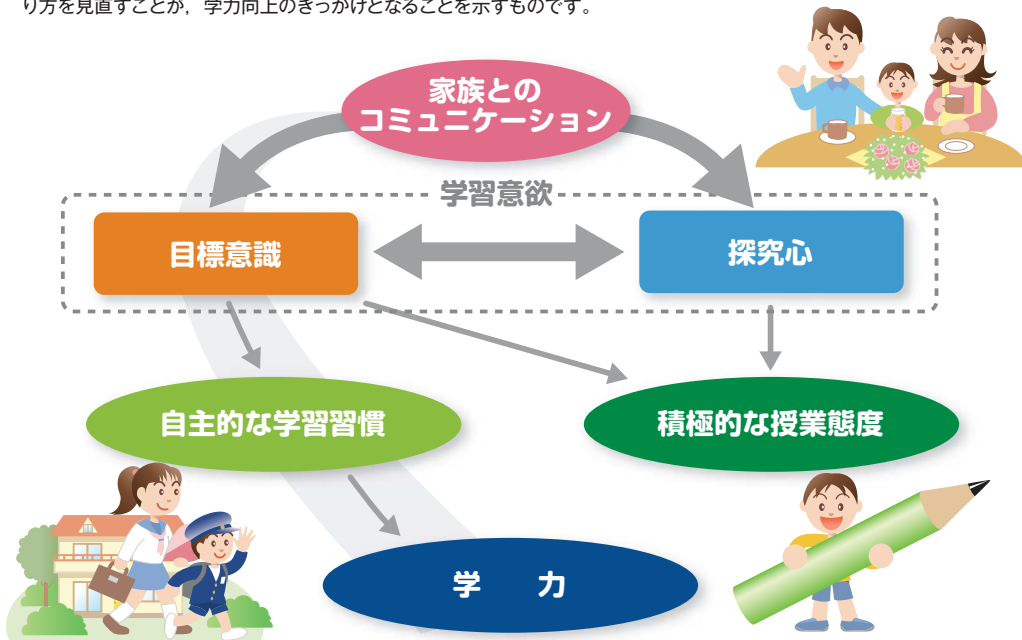
学 年	有効回答数	学 年	有効回答数
小5	8,928人	中1	8,711人
小6	9,113人	中2	8,712人
		中3	8,329人

子どもの学習意欲・学習態度を支えるもの

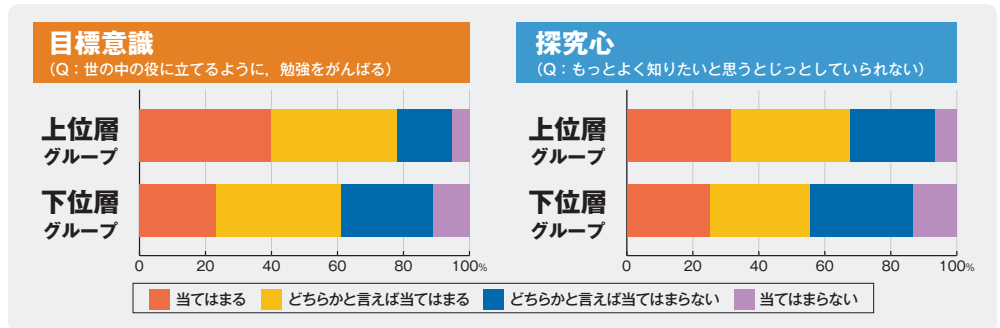
共分散構造分析による解析結果(小5～中3)

この図は、仙台市生活・学習状況調査(小5～中3)で使用した項目のうち、学習意欲項目と関連の強いものを抜き出して、各変数間の関係性を整理して表現したものです。非常に影響力の強い関係は太い矢印で示してあります。

家の人にじっくり話を聞いてもらうなど、家族とのコミュニケーションがきちんと交わされていると、子どもの心の中に目標意識や探究心といった学習に向かう意欲が、力強く育っていきます。さらに学習意欲は自主的な学習習慣の形成と積極的な授業態度を促し、学習習慣がしっかりとしている子どもほど学力も高いことが確認されました。子どもとの関わり方を見直すことが、学力向上のきっかけとなることを示すものです。

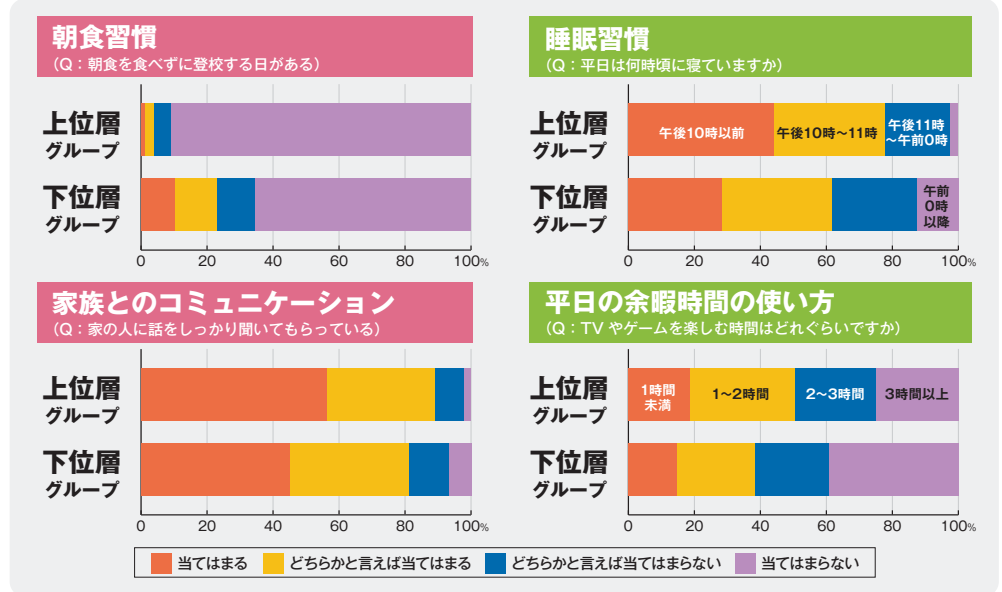


下のグラフは、仙台市標準学力検査の成績をもとに、上位層グループ(仙台市全体の上位25%に入る者)と下位層グループ(仙台市全体の下位25%に入る者)の間で、学習意欲の強さを比較したものです(グラフの横軸は各選択肢への回答の割合を表しています。選択肢は、「当てはまらない」、「どちらかと言えば当てはまらない」、「どちらかと言えば当てはまる」、「当てはまる」の4種類です)。将来に対するしっかりとした目標意識をもっている子ども、強い探究心をもって学習に取り組んでいる子どもは、どちらも上位層グループの方に多いことがわかります。



毎日の生活スタイルの積み重ねが、学力に影響する

上位層グループと下位層グループを比較してみると、生活状況にも様々な違いがありました。グラフの横軸は各選択肢への回答の割合を表しています。選択肢の内容は、2ページ下部のグラフと同じです(睡眠習慣・余暇時間の使い方に関するものを除く)。



上位層グループの子どもたちは、毎朝きちんと朝食をとり、平日はテレビやゲームに没頭することなく、早めに就寝している傾向がみられました。また、家族とのコミュニケーションも活発に行われているようです。

保護者の皆様へ

- ◆ バランスのとれた食事は、お子様の学力の向上を左右する大きな力をもっています。特に、朝食は白飯を主食として、タンパク質(肉・魚・豆類)とビタミン・ミネラル(野菜・果物類)の豊富なおかずを添えましょう。
- ◆ 長すぎず短すぎず、適切な睡眠時間を確保させましょう。睡眠は脳の成長にとって非常に重要です。
- ◆ 家庭内でお子様の話を聴く時間を、なるべく多く作りましょう。会話が心を育てていきます。

教員の皆様へ

- ◆ 小学校では「学ぶこと自体の面白さ」を実感できるような工夫を、中学校では将来の進路目標に結び付けられるような指導の工夫をしましょう。(4ページ④参照)
- ◆ 自分の思いや考えをきちんと分かりやすく表現する力は、社会性の基礎となることはもちろん、全ての学力の基礎となります。